

開 催 趣 意 書

会 議 の 名 称	(和文) 第 9 回国際 PCB ワークショップ (英文) The 9th International PCB Workshop
会 期	2016 年 10 月 9 日 (日) ～ 10 月 13 日 (木)
会 場	神戸コンベンションセンター 神戸国際会議場
主 催 団 体	第 9 回国際 PCB ワークショップ実行委員会
共 催 団 体	日本環境化学会、Superfund Research Program、Iowa University Superfund Research Program、National Institute of Health
後 援 団 体	環境省、JESCO、JICA、日本水環境学会、日本大気環境学会、日本分析化学会、環境毒性学会、日本質量分析学会、環境技術学会他
会 議 の 目 的 と 性 格	アメリカ Superfund の研究プログラムの一環として隔年で 8 回開催されてきた国際 PCB ワークショップの歴史を継承し、油症、PCB 処理技術など日本でなければできない情報発信を積み重ね、PCB 研究の今後や若手研究者の登用について、世界に向けた新たな提言が生まれる場を創生する。 若手が中心となるナイトミーティングや、学生による企画を含めることにより、科学研究の新たな世代の育成に資することも目的とする。
神 戸 開 催 に 至 っ た 経 緯	国際 PCB ワークショップ諮問委員会より、第 9 回ワークショップの日本での開催が打診された。ワークショップの実行に携わることのできる PCB 研究者が神戸を中心に関西圏にいて、関西圏の中では国際都市神戸での開催が諸外国からの参加者にとって利便性が高いこと、利用できる国際会議へのサポート体制が神戸において特に優れていると考えられたことから、神戸での開催を決定した。欧米以外では、アジアで初めての開催であり、日本、中国、台湾、韓国、タイ、マレーシア、オーストラリア、ベトナムを始めアジアからの研究者が多数参加できることも、神戸開催に至る経緯となった。
過 去 の 開 催 地	第 1 回：2000 年 レキシントン、USA。第 2 回：2002 年 ブルノ、チェコ。第 3 回：2004 年 イリノイ、USA。第 4 回：2006 年 ザコパネ、ポーランド。第 5 回：2008 年 アイオワ、USA。第 6 回：2010 年 ビズビー、スウェーデン。第 7 回：2012 年 アルカション、フランス。第 8 回：2014 年 ウッズホール、USA。
会 議 の テ ー マ	PCB リスク評価と環境保護 PCBs Risk Evaluation and Environmental Protection
参 加 者 参 加 国	14 ケ国 300 名 うち海外参加者： 13 ケ国 120 名、国内参加者： 180 名